

業務経歴書

1985年から2010まで

氏名：齋藤 真也

生年月日：1960/3/1（昭和35年3月1日）

出身地：新潟県新発田市

1980年代（出版、DTP、データベース）

【きっかけ】

神奈川大学卒業後、出版業界を目指す。いくつかの出版会社、編集プロダクション（新評論等）をへて不動産情報誌の業界（株式会社マルコーの子会社）に入る。

株式会社マルコーにてAS400(IBM現在のSystem i -> Power Systems)を通じてデータベースを管理運用する。同時に、Macintosh（1986年~）でDTP及びプログラミングを始める。

【ソフト会社での修行時代】

キャノン販売の子会社のソフト会社に入社

データベースチームのリーダーとして、キャノン販売の営業をサポート、年間100本以上の業務分析と提案書、年間40本以上の業務ソフト開発を行う。

当時のデータベースチームは10~15人の規模でパソコンベースの開発チームとしては最大規模。

ソニー、NTT、日産自動車などの大手企業様を初めとして、様々なお客様の為にソフトの開発を行う。変わった所では「ネットワークビジネス（ねずみ講）会員管理」「野菜の会員向けデリバリシステム」などの特殊な業務分析と問題解決を行う。

同時に印刷業界での経験を生かして、講習会マニュアル作成から始まり、講師の業務を行う。

営業から始まりソフト作成、納品、回収までの幅広い業務をこなす。月300時間の残業は最高記録となる。

1990年代（独立、経理パッケージ、帰郷）

【転機】

4年弱のソフト会社勤務後に独立。

ソフト業界で経験を積みながら経理パッケージを作成する。新潟で父母と暮らす事を目指して事業を進める。

経理パッケージの市場の変化にうまく対応出来ず事業化を断念。

(商品企画時点では40万円近くした一般的な経理ソフトの価格が完成時点では20万円前後、その後5-6万円になる。私の販売していたソフトが20万円。)

独立3年後、東京生活を終え、新潟に帰郷。

【 転身 】

新潟で職を探す但しはインターネットも普及してなく、新潟でのソフト開発は困難だった。新潟金属(旧太平洋金属新発田工場)に入社、3年弱の現場経験を経て業務システムの開発を始める。新潟金属が親会社の業務不振の為に閉鎖。

2000年代(再度独立、webアプリ、データベース)

【 2008年まで 】

インターネットの普及、東京時代のデベロッパーネットワーク(開発者仲間)のおかげで、再度ソフト会社を立ち上げる。父親の実家(有限会社 平野屋:大栄町1丁目)の一角にオフィスを作る。母の実家は『土地の笹川』。

社員を雇い、web関係の仕事をする。データベースとホームページの組み合わせで様々なアプリケーションを作成。

デベロッパーネットワーク(注)より仕事の依頼を受けて、首都圏の仕事をする。同時に新潟エリアの仕事を受注。

講習会からweb作成、データベース、エクセルテンプレート作成まで、幅広く仕事を行う。

【 2008年~2010年 】

有限会社 平野屋:大栄町1丁目のコンピュータ部門が業績不振の為に閉鎖。1年間ほどのブランクの後に、自営で営業を始める。

【 2010年 】

2010年12月24日 株式会社 平野屋コンピューティングを起業する。

以 上